

熊本県「地域の寺子屋」推進事業と
そこでのボランティア活動を通じた
大学生の学びと成長

天野かおり(尚絅大学)

藤本桃子(尚絅大学)

I. 熊本県教育委員会による
「学校を核とした『地域の寺子屋』
推進事業」の概要と展望



1. 事業目的

県内すべての
子どもたちに
地域の教育力を
活用した、
学びの場を
提供する。

2. 事業内容



皆さんが学んでいることや得意なこと、サークルで活動している内容等を生かして、仲間と一緒にボランティアとして活動してみませんか。（例）絵画、工作、実験、音楽、演劇、落語、手品、英会話、スポーツ、勉強など

登録

- ① エントリーシートに記入して県教育委員会に申請・登録
- ② 活動内容や希望日・時間を元に調整
- ③ 活動場所に派遣（自宅もしくは大学から活動場所までの旅費は県で負担します。）

派遣



地域の寺子屋



放課後子ども教室

学校支援地域本部

コミュニティスクール

学校応援団

基礎学力向上システム

活動時間帯は派遣場所で色々あります。ご希望の時間と調整します。
活動時間は、45～60分程度
参加者は主に小学生・中学生
市町村の担当者の方やコーディネーターさんと相談されて、進められてください。

3. 事業計画(3年間)

(1) 「地域の寺子屋プランナー」を配置

県北、県央および県南の3地域の教育事務所に各1名

(2) ボランティア団の編成と派遣

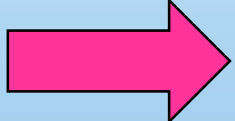
	事業予算 (プランナー関連) (ボランティア関連)	派遣回数	派遣に伴う旅費の負担	
			県	市町村
1年次(平成25年度)	8648千円 (5785千円) (2863千円)	350回	100%	0%
2年次(平成26年度)	9610千円 (6496千円) (3114千円)	500回	100%	0%
3年次(平成27年度)		500回		

4. 事業導入の経緯

(1) 既存事業の限界

各市町村の「放課後子ども教室推進事業」

「地域教育コーディネーター育成・活用事業」

 過疎化、高齢化による当該地域のボランティア不足

(2) 解決策の探求

広島県で展開されている「ワクワク学び隊」(大学生のボランティアチームを派遣するシステム)に着眼

 熊本県社会教育課がヒアリングを実施(平成24年7月)

(3) 登録チームの一覧

5. 登録チームの実相

(1) 登録の総数

27チーム

(2) 登録の内訳

大学生チーム：15

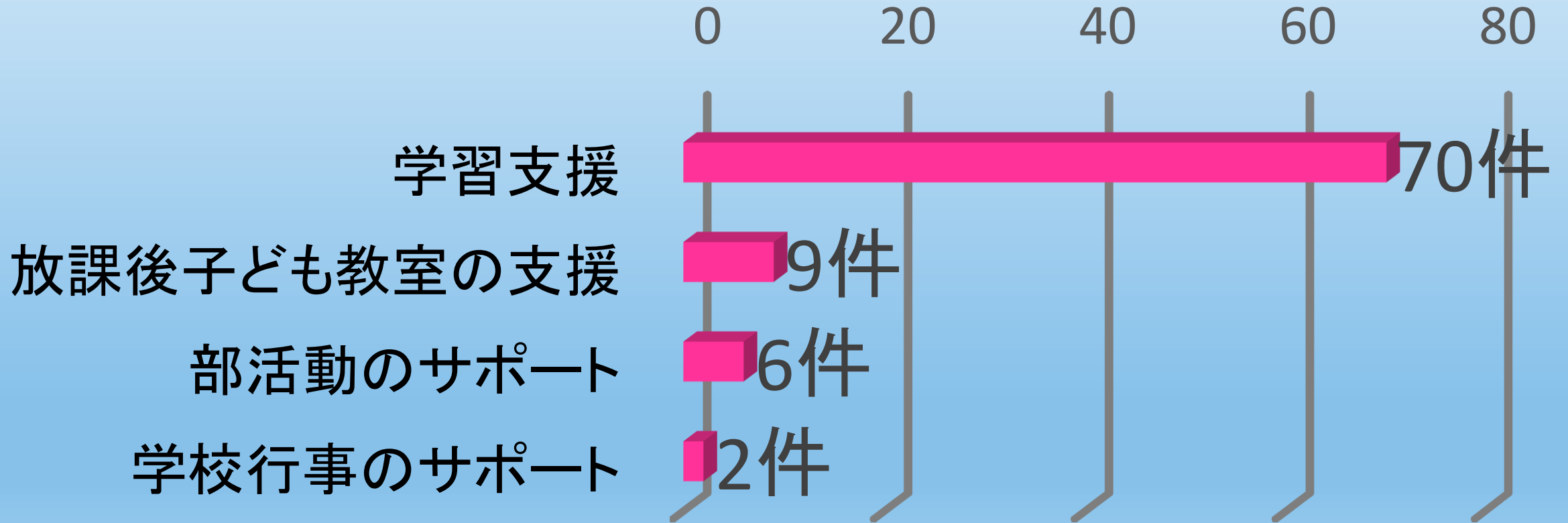
社会人チーム：12

登録NO	グループ名	所属等
001	尚綱☆みんなと学び隊	尚綱大学文化言語学部
002	囲碁体験教室	公益財団法人日本棋院
003	いのちをつなぐ会	いのちをつなぐ会
004	HOLIDAYS	九州看護福祉大学
005	希望の里ホンダ(株)社会活動部	希望の里ホンダ(株)事業管理課
006	くまもと ば! 発掘する	熊本県教育庁教育総務局文化課
007	つばなれの会	つばなれの会
008	劇団テアトロ 朗読チーム	劇団テアトロ
009	熊本大学メイクフレンズ	熊本大学教育学部
010	エンジェル ウィング	個人
011	九州看護福祉大学(個人)仮称	九州看護福祉大学(個人)
012	熊本県立大学 教職課程チーム	熊本県立大学
013	トモピエロ	熊本県教育庁教育総務局社会教育課
014	ルービックキューブ愛好会	熊本県教育庁教育総務局社会教育課
015	Double Slopes	熊本学園大学
016	KGU児童英語研究会	熊本学園大学外国語学部英米学科
017	熊本県環境センター	熊本県環境センター
018	HEART	熊本大学医学部保健学科看護学専攻
019	古賀研究室	熊本大学教育学部
020	熊大地共チームC	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
021	熊大地共チームK	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
022	熊本学園大学教職課程チーム	熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科
023	熊本大学陸上競技部	熊本大学大学院
024	九州バイオマスフォーラム	NPO法人 九州バイオマスフォーラム
025	熊大地共チームE	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
026	熊大地共チームO(オー)	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
027	熊本ドイツゲームの会	非営利団体

<平成25年12月2日現在>

6. 事業の現状

(1) 実現した活動の内容



(2) 各チームの活動状況

- ◆ およそ6ヶ月間で延べ100回の活動
- ◆ 全27チームのうち17チームが活動
- ◆ 社会人チームより大学生チームの方が盛んに活動できている。

◆ 活動チームの実績一覧

活動件数	チーム名	所属等
40	尚綱☆みんなと学び隊	尚綱大学文化言語学部
19	熊本県立大学 教職課程チーム	熊本県立大学
7	熊本大学陸上部	熊本大学大学院
6	HOLIDAYS	九州看護福祉大学
5	古賀研究室	熊本大学教育学部
4	熊大地共チームC	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
3	熊大地共チームK	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
3	熊本学園大学教職課程チーム	熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科
2	Double Slopes	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
2	熊大地共チームE	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
1	熊本大学メイクフレンズ	熊本大学教育学部
1	HEART	熊本大学医学部保健学科看護学専攻
1	熊大地共チームO(オー)	熊本大学教育学部地域共生社会課程3年
2	劇団テアトロ 朗読チーム	劇団テアトロ
2	ルービックキューブ愛好会	熊本県教育庁教育総務局社会教育課
2	トモピエロ	熊本県教育庁教育総務局社会教育課

(3) 大学生チームの事例「**尚綱☆みんなと学び隊**」

◆メンバーの属性

尚綱大学文化言語学部に所属し、教職課程を履修している1～4年生、20名程度



放課後子ども教室の支援

◆チームとしての工夫



中学校での学習支援

① 要請ごとに、活動可能なメンバーで班を構成

➡ マッチングを容易にする

② 班ごとに「予定表」を作成し、活動に必要な情報をチームで共有、蓄積

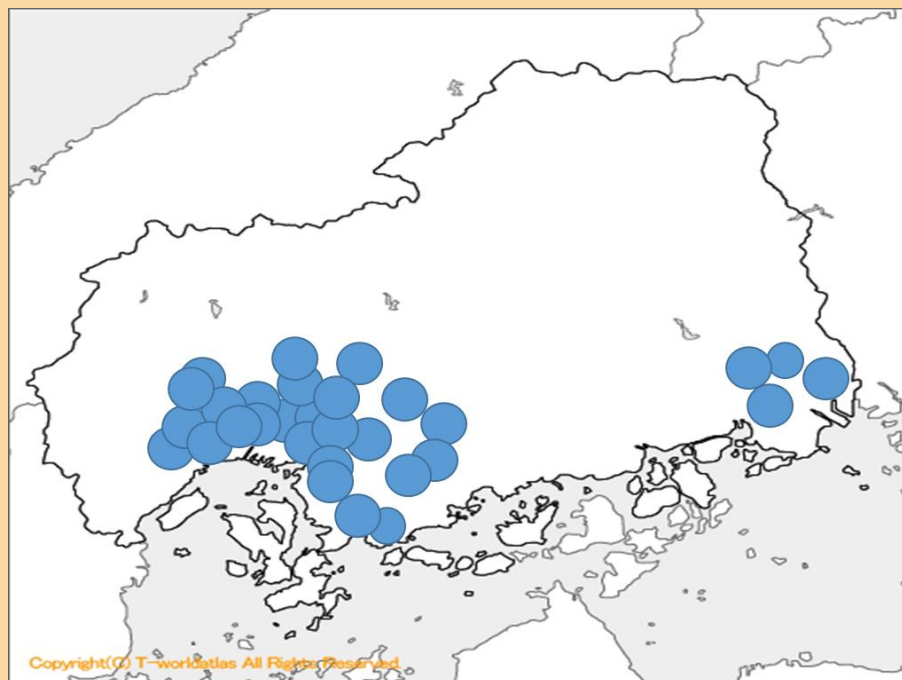
➡ 活動に伴う手間を軽減

7. 事業の特徴と今後の展望

- (1) ボランティア団への旅費の支給
- (2) 各市町村の教育委員会によるボランティア団の送迎

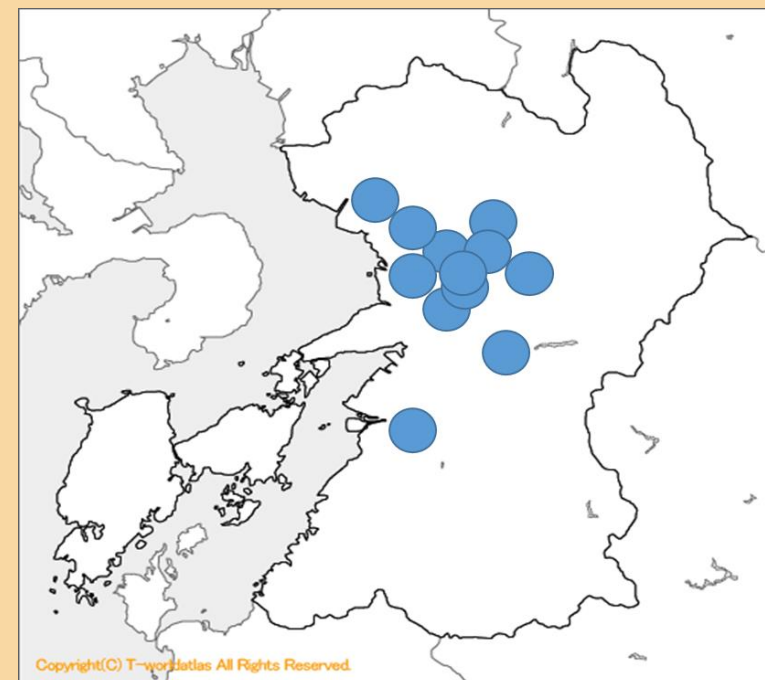
➡ 大学生の参加を促進、**だが3年後は？**

＜資料:広島県と熊本県における大学の分布＞



人口
286万人 | 182万人
＜出典:2010年国勢調査＞

大学数
27 大学 | 12大学



(3) 支援内容の偏り

- ◆ 大学生は指示された、単発的な活動に従事するだけ

(4) 「地域の寺子屋プランナー」の活用

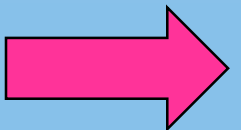
- ◆ プランナーは、退職校長に委嘱

 学校にとっては依頼しやすい、だが大学生にとっては？

寺子屋プランナーのもう一つの役割

地域の人材の活用について学校や市町村にアドバイス

これまでに142件の実績

 地域の教育力の活用を推進

今後は、地域に存在するニーズとシーズのコーディネート^①の質の向上が期待される

Ⅱ. 「地域の寺子屋」を通じた 大学生の学びと成長



8. ボランティア活動の推進をはかる政策動向

(1) 生涯学習の観点から

1. 生涯学習審議会答申(1992年)

「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」

(第2章 **ボランティア活動**の支援・推進について)

2. 生涯学習審議会答申(1999年)

「学習の成果を幅広く生かす～生涯学習の成果を生かすための方策について～」

(第3章 学習成果を「**ボランティア活動**」に生かす)

3. 中央教育審議会答申(2008年)

「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」

(各個人の学習機会の充実のため、また、同時に学習成果の活用のために
身近な地域で誰もが**ボランティア活動**に参加できるようにするため、)

(2) 学校教育への導入

1. 中央教育審議会第一次答申(1996年)

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」

(ボランティアなど社会貢献の精神も、[生きる力]を形作る大切な柱である。)

1998年学習指導要領の改訂「ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな経験を通して・・・」

2. 中央教育審議会答申(2002年)

「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」

(奉仕活動等においては個人の自発性は重要な要素であるが、社会に役立つ活動を幅広くとらえる観点からすれば、個人が様々なきっかけから活動を始め、活動を通じてその意義を深く認識し活動を続けるということが認められてよいと考えられる。特に学校教育においては、「自発性は活動の要件でなく活動の成果」ととらえることもできる。)

奉仕活動コボランティア活動

3. 中央教育審議会答申(2013年)

「今後の青少年の体験活動の推進について」

(生活・文化体験活動、自然体験活動、社会体験活動コボランティア活動)

(3) 教員養成との関連において

1. 教育職員養成審議会第一次答申(1997年)

「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」

(教員に求められる資質能力・・・**ボランティア精神**

教員を志願する者の豊かな人間性を培う観点から、大学在学中の福祉体験、**ボランティア体験**、自然体験等を奨励するため、教職課程に選択科目を開設することなども含め、大学による適切な配慮が求められる。)

2. 中央教育審議会答申(2006年)

「今後の教員養成・免許制度の在り方について」

(教員には、これまで以上に広く豊かな教養が求められていることを踏まえ、体験活動や**ボランティア活動**、・・・)

3. 中央教育審議会答申(2012年)

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」

(「教職の意義等に関する理解」、**学校ボランティア**を含む「子どもと教育に関する幅広い体験」により、教員になることの魅力やすばらしさとともに厳しさを感じさせる体験を積む。)

大学審議会
答申(1998年)
「21世紀の大学像と
今後の改革方策に
ついて」

(社会での**ボランティア活動**や大学と企業が協力して学生に自らの専攻や将来の職業に関連した就業体験を与えるインターンシップ等、学外の体験を取り入れた授業科目の開設などにより社会の実践的な教育力を大学教育に活用するという視点も重要である。)

9. ボランティアと学習

(1) ボランティア活動の4つの基本的性格

①自発性、②無償性、③公共性、④先駆性

特性を制限した場合の名称例				
自発性	無償性	公共性	先駆性	名称例
【1つ欠けた場合】				
○	○	○	×	奉仕活動
○	○	×	○	自己啓発活動
○	×	○	○	有償サービス活動
×	○	○	○	社会貢献活動
【1つが強調された場合】				
◎	○	○	○	主体的活動
○	◎	○	○	奉仕活動
○	○	◎	○	社会貢献活動
○	○	○	◎	市民運動・市民活動

* ボランティア活動⇔奉仕活動

「~とともに」 (with) ⇔ 「~のために」 (for)

互酬性 ⇔ 利他性

既存の社会構造や価値観への批判的なまなざし

* ボランティア活動⇔ボランティア学習

「ボランティア活動のもつ社会的役割や自己啓発への力を認識した上で、意図的または制度的に人間や社会が必要とする教育環境を設定して行う、社会貢献型体験学習」

<出典：興梠寛『希望への力』光生館、2003年、161頁。>

<出典：長沼豊『新しいボランティア学習の創造』ミネルヴァ書房、2008年、42-60頁。>

(2) ボランティア活動と学習の関係にみられる2側面

① 学習成果の活用による「社会創造」・・・(協働)(パートナーシップ)



② 学習過程としての「自己形成」・・・(自己実現)(意識変容)

学習装置：実践コミュニティ

10. 大学生の学びと成長をとらえる視点

(1) 「学士力」という観点から

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化，社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- (1) コミュニケーション・スキル
- (2) 数量的スキル
- (3) 情報リテラシー
- (4) 論理的思考力
- (5) 問題解決力

3. 態度・志向性

- (1) 自己管理能力
- (2) チームワーク・リーダーシップ
- (3) 倫理観
- (4) 市民としての社会的責任
- (5) 生涯学習力

4. 総合的な学習経験と創造的思考力

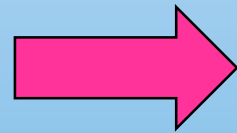
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力



教職課程の履修学生による学校支援ボランティアであること

「学士力」

1. 知識・理解
2. 汎用的技能
3. 態度・志向性
4. 総合的な学習経験と創造的思考力

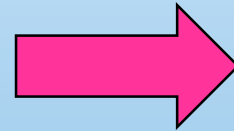


1. 専門基礎知識・技能の習得
2. 専門基礎知識・技能の活用
3. 人格の完成・市民性の獲得
4. 課題解決能力

(2) 成長という観点から

「成熟の諸次元」を手がかりに

1. 依存性から自立性へ
2. 受動性から能動性へ
3. 主観性から客観性へ
4. 無知から知識獲得へ
5. 小さな能力から大きな能力へ
6. 少しの責任から多くの責任へ
7. 狭い関心から広い関心へ
8. 利己性から利他性へ
9. 自己拒否から自己受容へ
10. あいまいな自己アイデンティティから統合された自己アイデンティティへ
11. 個別の焦点化から原理の焦点化へ
12. 表面的な関心から深い関心へ
13. 模倣から独創性へ
14. 確かさのニーズからあいまいさへの寛容へ
15. 衝動から理性へ



「人格の完成」と捉えて

1. 依存性から自律性へ
2. 受動性から能動性へ
13. 模倣から独創性へ
15. 衝動から理性へ
9. 自己拒否から自己受容へ
10. あいまいな自己アイデンティティから統合された自己アイデンティティへ

「市民性の獲得」と捉えて

7. 狭い関心から広い関心へ
12. 表面的な関心から深い関心へ
3. 主観性から客観性へ
14. 確かさのニーズからあいまいさへの寛容へ
6. 少しの責任から多くの責任へ
8. 利己性から利他性へ

(3) ボランティア活動と、大学生の学びと成長の関係

① 学習成果の活用による「社会創造」・・・(協働)(パートナーシップ)

相互作用

② 学習過程としての「自己形成」・・・(自己実現)(意識変容)

学習装置: 実践コミュニティ

① 大学での学修の活用による「社会貢献」

(専門基礎知識・技能の習得 + 活用)

相互作用

② 学習過程としての「自己形成」

(人格の完成)(市民性の獲得)

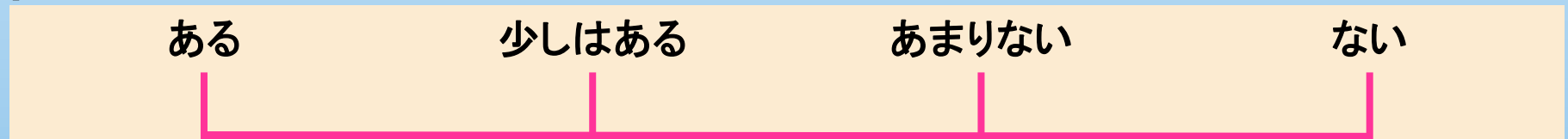
11. 学びと成長の実相

(1) 質問紙調査による量的把握

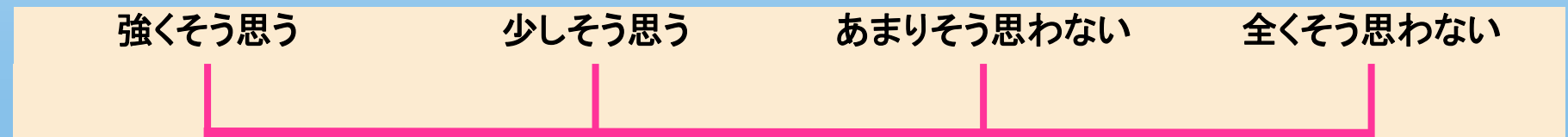
問1: 専門基礎知識・技能の習得 (18/19)

問2: 専門基礎知識・技能の活用 (18/19)

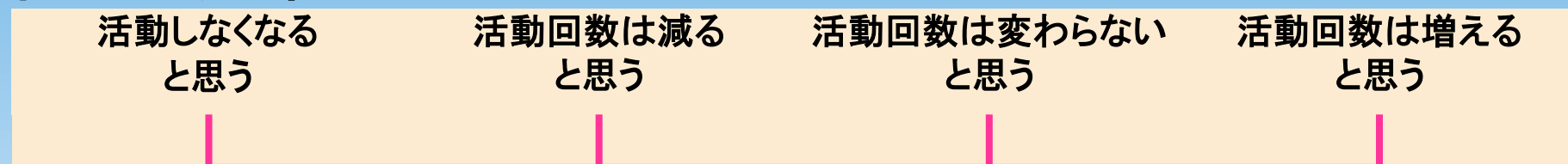
問3: 課題解決能力 (17/19)



問4: 人格の完成・市民性の獲得①～⑫ (19～14/19)



問5: 旅費の支給の効果 (11/19)



(2) 活動記録による質的把握

問1：専門基礎知識・技能の習得

発達段階に応じた指導といった視点や、発達障害に対する理解、学習指導要領の改訂やコミュニティ・スクール等の近年の教育施策の動向に関する理解

- 教えるのでも、上級生と下級生ではやはり理解力が違うので、…中略…どんな言葉を使って教えるのかだったり、どんな姿勢・目線で接するのかというのがやはり難しかった。
- その生徒たちの中には支援学級の生徒たちも何人かいたそうで、その生徒たちは確かに落ち着きがなくずっと話をしていた。見ただけでは支援学級の生徒だとは全く思っておらず、校長先生からそのことを聞くまでは、わからなかった。
- 学習指導要領改訂に伴い新課程も始まっているということだったが、いまいちどのくらい変わったのかというのが分からなかった。しかし今回、〇〇中に学習支援に行き、共通テストの過去問を教えたり、いっしょに考えたりすることで、…中略…よくわかった。
- 文化祭を、生徒や先生だけでなく地域や保護者の方々が一丸となって作り上げているところにとても驚いたと共に感激した。…中略…コミュニティ・スクールならではの様子ではないのかと感じた。

問2: 専門基礎知識・技能の活用

大学で学んだ教職論や発達理論、教育方法を踏まえた支援の実践

- どこがどう間違っているのかということや、ヒントを出すことや、生徒になぜこう思ったのかを聞いたうえで指導するということをしなければなりませんでした。
- 「今から、こういう風にするからね」という具合に行動の順序を示してあげると、スムーズにいった。
- 少し放任過ぎたという反省もあったが、児童の言動に対してプラスのリアクションを心がけ、笑顔を絶やさず、自ら働きかける積極的な態度で臨めたことはよかった点だと思う。
- 全体的に自分から質問をしない生徒であるということをお聞きしていたため、こちらから声かけをしたり、近くに行くことを心掛けた。

実践を通じた教師への育ち

- 生徒たちと一緒に学習をしていくという行為が、自分の喜びにもなるという事を理解し、「教員」という目標がより具体化できたように思う。
- 私が教えた生徒は、はじめは解けなかった問題を私が指導したことによりだんだん解けるようになっていったので、喜びや達成感がありました。

問4: 人格の完成・市民性の獲得

「受動性から能動性へ」

- ボランティアの立場ではあるが、活動する際には指示を待って動くのではなく自主的に行動すべきということ。

「表面的な関心から深い関心へ」

- 自分が見た現場や、生徒たちからもらった言葉から、今後の自分の学習に対して、改めて意欲が湧きました。

「主観性から客観性へ」

- いくら丁寧に活動するとはいえ、少し自分の動きが鈍かったように思える。
 - 気の利いた行動がまだできていないように思いました。

「少しの責任から多くの責任へ」

- 生徒から見れば、自分は先生なのだという意識を強く持ち活動する。

「利己性から利他性へ」

- 送迎をしてくださる教育委員会の方や、温かく自分たちを迎えてくださる先生方などたくさんの方への感謝の気持ちを常に持ち続けること。

Ⅲ. 地域の教育力の 向上と活用のために



12. 実現可能な取り組みとして

(1) 大学生の学習機会として工夫を凝らす

例:「放課後子ども教室」のプログラムを大学生が開発・提案

(2) ニーズとシーズの「見える」化を図る

例:「学校支援メニューフェア」の導入

(参考: 滋賀県教育委員会による学校支援メニューの見本市的事業)

<参照: 安部耕作「人口減少時代における生涯学習・キャリア教育の展: win-win関係の企業・団体の学校支援への着目」
『日本生涯教育学会論集』2013年、93-102頁。>

(3) プランナーの力量を高める

(4) 市民性を見据えたボランティア活動を

① ボランティア活動のもつ「先駆性」

既存の社会構造や価値観への批判的なまなざし

単に既存の社会に適応するのではなく、新たな社会システムを創造する。
従来から承認されてきた価値に従って行動するのではなく、価値を自ら創出する。

② ボランティア活動のもつ「互酬性」

「～のために」 (for) から 「～とともに」 (with)

学校と地域社会との新たな関係

連鎖

地域の教育力の豊饒化

もたらず可能性